

# 史跡 和歌山城

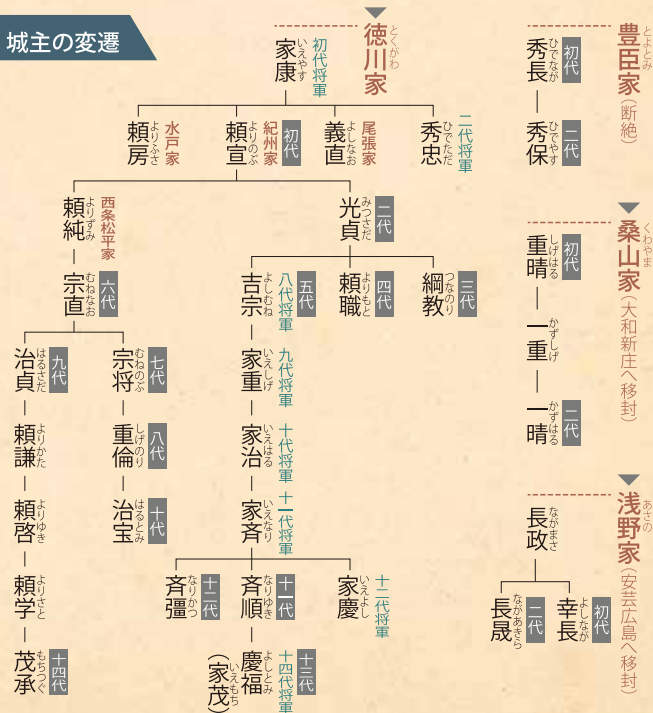
天正13年(1585)、羽柴(豊臣)秀吉が弟の秀長に命じて岡山(虎伏山)の峰に築城させたのが始まり。築城を担当した家臣の1人がのちに築城の名人といわれる藤堂高虎です。同年、秀長の城代として桑山重晴が入り、秀長家が途絶えると桑山氏が城主となり、豊臣・桑山時代に山嶺部分や岡口の整備が行われました。

慶長5年(1600)関ヶ原の戦い後、浅野幸長が入城すると、黒板張りの連立式天守を建て、現在の二の丸・西の丸に屋敷を造営し、居城として整備を進めます。大手も岡口から一の橋に変え、大手筋を基軸とする正方位の町割りで、城と城下町の形が造られました。

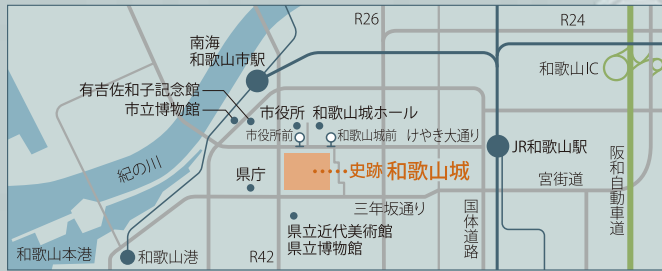
元和5年(1619)、徳川家康の10男頼宣が入城し、55万5千石の御三家の1つ紀州徳川家が成立。二の丸西部・砂の丸・南の丸を増築し、ほぼ現在の和歌山城の姿となりました。明治・大正期を経て、昭和6年(1931)国の史跡に指定され、長く地元で親しまれています。

城のシンボルである連立式天守は、寛政10年(1798)に黒板張りから白壁に外観が一新されますが、弘化3年(1846)に落雷で焼失。その4年後に再建された2代目の天守閣も、昭和20年(1945)に空襲で再び焼失。現在の天守閣は、昭和33年(1958)に鉄筋コンクリート造で再建された3代目です。

## 城主の変遷



わかやまこじょうないそうおんえず  
 和歌山御城内惣御絵図 (和歌山県立図書館蔵)  
 18世紀末~19世紀初頭に作成された絵図。幕末期の和歌山城内郭の様相を探ることができます。建て替える度に貼紙で現状を示しており、城内の建物を把握するための基本資料となっています。



## 《天守閣の利用案内》

- 入館料 大人(高校生以上)410円、小人(中学生以下)200円  
 ※団体割引あり、土曜日は小人無料  
 ※記載の入館料で、わかやま歴史館 歴史展示室にも入場いただけます。
- 開館時間 AM9:00 ~ PM5:30 (入館はPM5:00まで)
- 休館日 12月29日~12月31日

## 《交通》

JR和歌山駅、南海和歌山市駅から  
 和歌山バス「和歌山城前」または「市役所前」下車すぐ

## 《お問合せ》

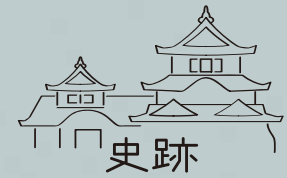
- 和歌山城天守閣  
 〒640-8146 和歌山市一番丁3番地 Tel.073-422-8979
- 和歌山市役所 和歌山城整備企画課 (平日AM8:30~PM5:15)  
 〒640-8511 和歌山市七番丁23番地 Tel.073-435-1044



史跡和歌山城に着いたら…  
 VRポイントで昔の景観を見てみよう!  
 ▶ 現地で体験! 歴史散策VRアプリ  
 ▶ ストリートミュージアム®をご利用ください



# WAKAYAMA WAKAYAMA CASTLE CASTLE



# 和歌山城

好奇心をシェアするガイド Map

- 和歌山城天守閣
- 名勝 西之丸庭園
- わかやま歴史館
- 茶室 紅松庵



# 和歌山城の歴史

History of Wakayama Castle  
和歌山城的歴史  
和歌山城的历史  
와카야마성의 역사



## 和歌山城の歴史文化に触れる わかやま歴史館

### 紀州徳川家の成り立ちと武家文化

わかやま歴史館2階の歴史展示室では、和歌山城の築城からの歴史はもちろん、茶の湯や能楽などの紀州徳川家の荘厳な武家文化を体感していただくことができます。また、現在の和歌山市域に生れ、近現代に各分野で活躍した5人の先人を取り上げ、ゆかりの実物資料を中心にその功績を紹介しており、合わせて城下町和歌山の風土を知ることができます。

### わかやま人物探訪



### 和歌山市観光土産センター

梅干しや醤油、地酒、お菓子、紀州てまりや漆器といった職人こだわりの民芸品など、和歌山のおみやげを取り揃えています。



### わかやま歴史館

■ 2F 歴史展示室 開館/AM9:00~PM5:30(入場はPM5:00まで)  
料金/大人(高校生以上)100円、小人(中学生以下)無料  
※和歌山城天守閣と共通入場券あり  
休館日/12月29日~12月31日

■ 1F 和歌山市観光土産センター 営業/3月~11月)AM9:00~PM6:00、(12月~2月)AM9:00~PM5:00  
休日/12月29日~1月3日 Tel.073(435)1184

紀州徳川家伝来の金印  
組み合わせて収納できる金属製の印。親獅子と子獅子、六面体の3つのパーツからなります。計8つの印面のうち、「南海之鎮」の印面は、紀州徳川家が西日本を監視する役割を担っていたことを示しています。

シアタールーム「よみがえる和歌山城」  
近世後期の和歌山城内郭を学術的な考証に基づきVR映像で再現。かつての壮麗な城の姿をワイドスクリーンに映し出します(上映時間 約12分)

和歌山市語り部クラブの  
とっておき観光ガイドの  
ご案内

和歌山市  
語り部クラブの  
ガイド情報は  
こちらから!



お城の景観とともに、季節ごとに変わる美しい花々が楽しめます

←和歌山城公式  
Instagramは  
こちらから



## 大名庭園の風雅を楽しむ 名勝 西之丸庭園

紅葉が見事で「紅葉溪庭園」と呼ばれています。虎伏山の急峻な地形を巧みに利用し、精緻な石組を配した池泉回遊式庭園で、城内堀を池に見立て、庭園の景色に取り込んでいるのが特徴。江戸時代初期に作庭され、庭石には「紀州の青石(緑泥片岩)」がふんだんに使われています。昭和48年(1973)に改めて整備され、同60年には国の名勝に指定されました。

開園/AM9:00~PM5:00  
(入園はPM4:45まで)  
休園日/12月29日~12月31日  
入園料/無料



鳶魚閣と紅葉  
庭園内にある堀に突出した姿が優雅な釣殿風の建物。障子張りの火灯窓で紅葉との調和が美しい。



さわやかな新緑の時期もオススメです。

## 数寄屋造りの茶室でお茶を 茶室 紅松庵



西之丸庭園内にある数寄屋造りの茶室。昭和48年(1973)の庭園整備を記念して、和歌山市出身で「経営の神様」と呼ばれた松下幸之助氏の寄贈により翌年5月に落成しました。「紅葉溪」の「紅」と松下氏の「松」からの命名。徳川期にも数寄屋が建っており、その前の浅野期にも、書院式茶室がありました。現在は落ち着いた空間で、作法など気にせずお抹茶とお菓子を楽しめます。



営業/AM9:00~PM4:30  
(入室はPM4:00まで)  
休日/12月29日~1月3日  
一服/470円(抹茶とお菓子)  
Tel.073-431-8648  
※貸切利用日はご利用いただけません。



## 大奥 御橋廊下 「埋蔵文化財」

### 発掘から整備を目指して

和歌山城の地中には江戸時代に存在した建物の跡や生活品(埋蔵文化財)がたくさん残っています。平成18年(2006)に二の丸と西の丸の間に架かっていた御橋廊下が復元されましたが、復元に先立ち周辺で発掘調査が行われました。その際に橋の礎石が堀底から見つかったことで御橋廊下が架かっていた正確な位置が特定できました。また、二の丸御殿の大奥エリアの整備に伴い、平成20年度(2008)~平成27年度(2015)に行われた発掘調査では、庭園の跡や穴蔵といった当時の生活の様子がわかる埋蔵文化財が多く見つかっています。このように城の整備を行う際は、参考となる手がかりが地中に眠っていることが多いため、発掘調査が欠かせません。



復元された御橋廊下の内部。斜めにかかる廊下橋は大変美しい。

全国でもめずらしい、連立式天守!

発見! ビューポイント

## 天守閣の形とデザイン



①大天守 ②小天守 ③乾櫓 ④二の門櫓

大天守と小天守、さらに二つの櫓を多門櫓によってつなげた見事な連立式天守は、姫路城、松山城と並ぶ日本三大連立式天守のひとつです。昭和10年(1935)に旧国宝に指定されますが、戦火で焼失し、多くの市民の思いで昭和33年(1958)に再建されました。複数の建物が連なる天守の姿は、城下町・和歌山のシンボルです。三層の屋根には曲線状の唐破風や千鳥破風などの装飾が施され堂々とした美しいデザインとなっています。



唐破風と青海波紋



どこかに桃の瓦!?



大天守からの眺め



二つの櫓をバックに紀の川河口が見える

山の頂きを利用した要塞の見どころ

## もっと知りたい? 和歌山城

マークに仕掛けが...



石落

高石垣



枡形虎口

土塀の狭間

- 天守閣の石落と石垣  
石落は敵が石垣をよじ登ってきた際、そこから石を落としたり槍で突いたりするための仕掛けです。また、城内には簡単に登れないように高い石垣もたくさんあります。
- 枡形虎口 敵が直進できないように通路を折り曲げた出入口を枡形虎口といいます。和歌山城では重要な城門周辺のほとんどがこの形式で、厳重な構えをしていました。
- 土塀の狭間 土塀には鉄砲や弓で敵を狙うための穴である狭間が設けられていました。

マークに物語あり?

- 埋門 天守閣北側に存在するトンネル状の門。下の水の手郭の井戸(黄金水)で汲んだ水を天守閣に運び入れるために設置されたと考えられています。
- 伏虎像 天守閣が建つ山は虎が伏せているように見える事から伏虎山と呼ばれています。北東山麓にはこの話にちなんで寝そべっている虎の姿をした伏虎像が置かれています。



こんなところに門が!



追廻門

櫓はなく柱に本瓦葺の屋根を乗せ石垣に挟まれた門。現存するお城の門では珍しく朱色に塗られている。(市指定文化財)

平成20年度(2008)~平成27年度(2015)にかけて二の丸御殿の大奥跡(紀州藩主のプライベート空間)で行われた発掘調査では、藩主が鑑賞したであろう漆喰貼りの池や石組池、排水のための石組溝等、当時の大奥の様子がわかる貴重な遺構がたくさん見つかりました。また、徳川入国以前の城を物語る浅野期の石垣も見つかりました。

## 埋設遺構が語る大奥の姿

政治と生活の場 二の丸に迫る



漆喰貼りの池

石組池

石組溝

浅野期の石垣



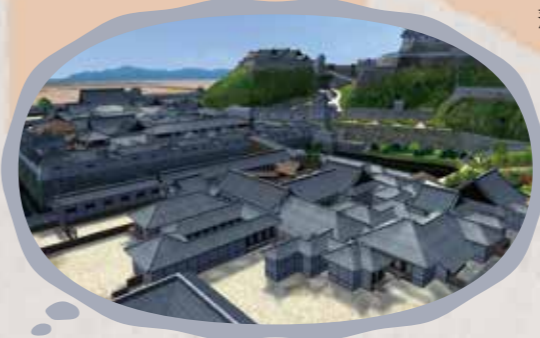
柱の礎石

遺構から復元された 御橋廊下

発掘調査で堀底から御橋廊下を支えていた柱の礎石が見つかりました。また、残された御橋廊下の図面と発掘調査成果から、平成18年(2006)に木造で復元されました。



ココ!



大奥での風流な暮りがよみがえり?



紀州徳川家初代 徳川頼宣

8代将軍吉宗を輩出した 御三家のひとつ

## 紀州徳川家が遺したものの

①徳川頼宣(1602~1671) 江戸幕府初代将軍・徳川家康の10男。元和5年(1619)に幕府から紀伊国(和歌山県)と伊勢国(三重県)・大和国(奈良県)の一部55万5千石を与えられて徳川御三家の1つ紀州徳川家の初代となります。和歌山城を増築(二の丸西側・砂の丸・南の丸)して城を完成させ、和歌浦に父・家康を祀る壮麗な紀州東照宮を創建しました。没後「南龍公」と呼ばれています。

②徳川吉宗(1684~1751) 新田開発や倭約を進めて当時赤字続きの紀州藩を立て直しました。享保元年(1716)にはその手腕を評価されて江戸幕府8代将軍に就任。享保の改革を推し進め、江戸幕府中興の祖と呼ばれました。



紀州徳川家五代 徳川吉宗

③徳川治宝(1771~1852)

茶道・雅楽・書画・陶芸などの芸術と学問を愛し、「数奇の殿様」と呼ばれています。また、和歌山城の天守閣の外壁を黒板張から白壁に変更したり、落雷で焼失した天守閣の再建の指揮をとる等、和歌山城にも深くかかわった藩主でした。



紀州徳川家十代 徳川治宝



大手門と一の橋

手前の一の橋を渡り、正門である大手門へとつながる。櫓はなく屋根を乗せただけの簡素ですっきりした高麗門式。

## 多様な石垣の違いを観る

マーク周辺でいろんな石垣が...

長い歴史の中で 石材と工法が違う?

石垣マップ (はこうりから!)



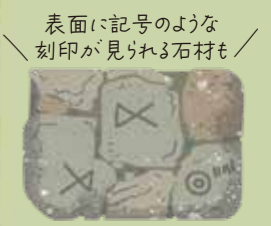
天正13年(1585)に築城された当時の石垣から、城主が変わるごとに石材や工法が変遷しています。和歌山城の中でも「結晶片岩による野面積み」の天守台石垣が最も古いものと考えられています。時代の違いがわかる場所がたくさんあるので、探索してみましょう。



結晶片岩の野面積み



砂岩の打ち込み接ぎ



表面に記号のような刻印が見られる石材も!



花崗斑岩の切り込み接ぎ

← 石垣を巡ろう!!